

本日3月28日から、ウェブサイト「大分市デジタルアーカイブ～おいたの記憶～」において、磨崖仏（6件）の3Dモデルを公開します。

事業の目的

3Dモデルの制作・公開により、風化や浸食が課題となっている磨崖仏の現状を記録するとともに、いつでも・どこでも・あらゆる角度からの閲覧が可能となります。

これにより、観光や地域振興をはじめ、学術研究など様々な場面での活用や、郷土遺産である磨崖仏の魅力が多くの人に伝わることを期待できます。

事業費:5,478千円(うち、国交付金※50%)
※デジタル田園都市国家構想交付金

対象の磨崖仏

1 大分元町石仏(国指定史跡)

大分県を代表する磨崖仏の一つ。本尊の薬師如来像の顔立ち、木造仏と遜色がない繊細な造形であり、定朝様式の仏像を彷彿とさせる。

所在：元町
年代：平安後期



2 高瀬石仏(国指定史跡)

本尊の大日如来像をはじめ、牛にまたがる大威徳明王のほか、西遊記の沙悟浄のモデルといわれる深沙大将是全国的にも作例が少なく貴重。

所在：高瀬
年代：平安後期



3 岩屋寺石仏(県指定史跡)

国指定史跡であったが、傷みが進み県指定史跡に変更された17体の磨崖仏。向かって右端の十一面観音立像は比較的残りが良く秀作である。

所在：古国府
年代：平安後期



4 曲石仏(県指定史跡)

釈迦堂と呼ばれる石窟内の大きな坐像は崖に刻まれた磨崖仏ではなく、木造仏の寄木造りの様に石材を組み合わせて造られている。

所在：曲
年代：平安末期～室町



5 口戸磨崖仏(県指定史跡)

宇佐八幡宮を意味する「小倉山」の文字が印象的で、宇佐八幡を勧請※したもの。三像は宇佐八幡の三神(応神天皇、比売神、神功皇后)と推定される。

※神仏の分身・分霊を他の地に移して祭ること

所在：口戸
年代：室町



6 伽藍石仏(市指定史跡)

小窟内の中央に彫られた阿彌陀如来坐像は、光背全体を彫りくぼめ、その中に像体を彫り出しており、鎌倉時代の豊後独特の手法で造られている。

所在：永興
年代：鎌倉～室町



スペシャルコンテンツ「磨崖仏を訪ねる」

デジタルアーカイブ内のスペシャルコンテンツ「磨崖仏を訪ねる」から閲覧できます。現地でも確認することが困難な角度や距離から、自由な視点で磨崖仏の魅力を楽しめます。



▼3D化した「大分元町石仏」



仏像の穏やかな表情や、わずかに残る色彩などから、当時の優れた仏教美術の技や、人々の信仰の厚さをうかがい知ることができます。磨崖仏は千年後の今もなお、いにしへの郷土の文化を伝えてくれる貴重な文化財です。

令和6年度 追加予定のコンテンツ

高精細ウェブギャラリーのコンテンツ追加

地域に残る大型の絵馬・絵巻物・古地図など、これまで全体展示が困難であったものを高精細画像で撮影を行い、全体像や超拡大での閲覧を可能とするコンテンツを追加します。



現在公開中の「御城下絵図の世界」より